

平成18年12月 教育研究評議会議事録（案）

．日 時 平成18年12月14日（木）14時00分～16時35分

．場 所 事務局第一会議室

．出席者 古在学長，福島，宮崎，天野，安田，藤澤，各理事
宮埜，柿原，廣井，徳久，堀江，石垣，野口，菊池，秋元，金子，西尾，
三上，伊勢崎，北村，山内，嶋津，三宅，安藤，島倉，遠藤，齋藤，守屋，
田村，多賀谷，辻，中谷，正木，小倉，犬伏，石川，三橋各評議員
（37名）
陪 席：木南監事
（欠席者：明石，河野，上野，西村，土屋）

．前回教育研究評議会議事録について
原案どおり承認された。

．審議事項

1．中期目標・中期計画の変更について

学長から，理学・工学・園芸学・融合科学の各研究科の設置及び看護学研究科の
入学定員増加に伴う中期目標・中期計画の変更について，審議願いたい旨提案があ
った後，天野理事から，資料1に基づき説明があった。

2．千葉大学地域観光創造センター規程（案）について

学長から，千葉大学地域観光創造センター規程（案）について，審議願いたい旨
提案があった後，宮崎理事から，資料2に基づき説明があった。

3．千葉大学教育運営検討委員会規程（案）について

学長から，千葉大学教育運営検討委員会規程（案）について，審議願いたい旨提
案があった後，宮崎理事から，資料3に基づき説明があった。

4．情報セキュリティ対策基準（案）について

学長から，情報セキュリティ対策基準（案）について，審議願いたい旨提案があ
った後，天野理事から，資料4に基づき説明があった。また，伊勢崎総合メディア
基盤センター長から，組織と体制について，部局長が部局情報システム管理責任者
になる旨併せて説明があった。

主な意見は次のとおり。

研究成果の情報資産取扱者は教員となる。

大学で行われた研究成果は大学に帰属するものとするれば，部局長が研究成果を

すべて管理することになるのか。

情報資産取扱者（情報資産を作成した者）が管理することになる。部局長は部局特有の情報資産の管理責任者となると想定している。

秘密の情報を知りうる者のリストは誰が管理するのが適当か。

外部監査からの指摘もあり，セキュリティ基準を規定したところであるので，
どういう基準で判断するかは今後の運用の積み上げによるところが大きい。

最高重要度レベル（G15）の情報資産はバックアップを同時被災しないところに保存することとなる。

学生データ等も千葉大学以外にバックアップして保存することになるのか。

定期的なバックアップ管理は高額な費用がかかるので，現実的には異なるキャンパスにデータを置く予定である。

5．国際化の指針について

学長から 本学における国際化の指針について 審議願いたい旨提案があった後，
天野理事から，資料5に基づき説明があった。

主な意見は次のとおり。

環太平洋に地域を限定するのか。

環太平洋とは，太平洋と千葉がつながっているのので，世界に開いている事を示唆するつもりのキーワードであり，研究範囲を限るわけではない

各部局における国際交流委員会等で議論のうえ，年内に意見を提出することとなった。

6．国立大学法人千葉大学における大学教員の任期に関する規程の一部改正について

学長から，真菌医学研究センターの任期制導入に伴う教員任期規程の一部改正について，
審議願いたい旨提案があった後，安田理事から，資料に基づき説明があった。

．報告事項

1．学長裁量による教員重点配置計画（案）について

安田理事から，学長裁量による教員重点配置計画（案）について，資料6に基づき報告があった。また，グローバルCOE関連のポストの任期終期については，グローバルCOEが採択されない場合も考慮して，プロジェクト終了までとしている旨併せて説明があった。

2．研究活動の不正行為対策委員会について

天野理事から，研究活動の不正行為対策委員会について，資料7に基づき報告があった。

3．コンビニアンケートの結果について

宮崎理事から、コンビニアンケートの結果について、資料8に基づき報告があった。

主な意見は次のとおり。

設置に関して大学の負担はない。

自転車のたまり場にならないか心配である。

設置導入が先にありきではない。学生との対話が重要であり、各学部でも検討してほしい。

生協とも懇談会をし、開店時間の延長等を申し入れたが踏み切れないようだ。

4. 学長と学生との懇談会について

宮崎理事から、学長と学生との懇談会の概要について、資料9に基づき報告があった。

なお、来年度はまず各部局で懇談会を開催し、部局内で解決できる課題を整理し、その後、学長との懇談会で全学的課題を検討する旨併せて報告があった。

5. 平成19年3月新卒者就職内定状況調査について

宮崎理事から、平成19年3月新卒者就職内定状況調査について、資料10に基づき説明があった。

主な意見は次のとおり。

過去のこの時期との統計比較があるとよい。

就職できない学生に追跡調査をする必要があるのではないか。

卒業研究ゼミがない学部では情報が集めにくい。

就職先を教えたくない学生もいる。

各学部においては、さらに信頼性の高いデータを集める努力をしてほしい。

6. 第29回「産官学フォーラム」について

天野理事から第29回「産官学フォーラム」の開催について、資料11に基づき報告があった。

7. 普遍教育学生懇談会報告について

北村普遍教育センター長から、普遍教育学生懇談会について、資料12に基づき報告があった。

8. 科学研究費補助金に係る不正使用等防止のための措置について

前田企画総務部長から、科学研究費補助金に係る不正使用等防止のための措置について、資料13に基づき報告があった。

9. 部局別教員数について

学長から、部局別教員数について、資料14に基づき説明があった。

10. 国大協報告について

学長から、平成19年度大学関係予算の確保・充実について、資料15に基づき報告があった。

11. 各種シンポジウム等について

学長から、各種シンポジウム等について、資料16-1~4に基づき報告があった。

12. その他

(1) 平成19年度科学振興調整費公募プログラム(予定)について

宮崎理事から、平成19年度の科学振興調整費公募プログラムの予定について、説明があった。

(2) 平成19年度千葉大学大学院研究科(博士後期課程)への人格・成績・研究能力が優れた外国人大学院生の受入れについて

宮崎理事から、優れた外国人大学院生の受入れ計画について、資料17に基づき説明があった。

主な意見は次のとおり

国内に既に来ている外国人研究生が応募してくるが受け付けてよいか。

各研究科の裁量でテーマを限定し、また、一般公募でなくてもよい。もちろん国内にいる研究生でもいいという判断もできる。

奨学金を10万以上にしたい場合、部局が差額を補填することも可能である。

なぜ外国人だけ特典があるのか。

大学基金から拠出し、平成20年度から日本人も対象となるようにしたい。

(3) グローバルCOEの申請状況

宮崎理事から、平成19年度のグローバルCOE申請が19件あったことが報告された。また、各申請を融合した申請になるもの、あるいは概算要求事項へシフトしていくものが出る見込みである旨併せて説明があった。

(4) 再チャレンジプログラムについて

福島理事から、安倍新政権の主要政策として、文部科学省から全体として20億円の予算がつく見込みであるとの連絡を受けた旨説明があり、本学としても申請していく旨報告があった。

(5) カルト問題について

宮崎理事からカルト集団に勧誘された学生に対しての専用窓口を設け、電話やファックス等で相談体制ができた旨報告があった。また、カルト集団に関わると思われる者が、昼食後の時間帯に複数で接触する等、学生食堂で勧誘された例が併せて報告された。